

平成 20 年度 第 1 回常任委員会 議事録

日 時：平成 20 年 5 月 22 日（木）13：00～15：30

場 所：土木学会 A・B 会議室

出席者：宮川委員長，石橋，入矢，上田，梅原，岡澤（代理：小川），金津，河野，黒田，坂井，下村，新藤，武若，堤，手塚，富田，二羽，丸山，六郷，渡辺の各常任委員，岸，佐藤，信田，服部の各幹事，松沼（事務局）

配布資料：

- 1-0 平成 20 年度 第 1 回コンクリート委員会常任委員会 議事次第
- 1-1 平成 19 年度 第 6 回常任委員会 議事録（案）
- 1-2-1 平成 19 年度 コンクリート委員会 会計状況（3/31 最終）
- 1-2-2 平成 20 年度 コンクリート委員会 予算案
- 1-3-1 ステンレス鉄筋を用いるコンクリート構造物の設計施工指針（案）への意見対応
- 1-3-2 ステンレス鉄筋を用いるコンクリート構造物の設計施工指針（案）
- 1-4 115 英文版コンクリート標準示方書小委員会 委員名簿
- 1-5 エポキシ樹脂を用いた高機能 PC 鋼材を使用するプレストレストコンクリート設計施工研究小委員会 委員構成（案）
- 1-6 インフラマネジメント研究小委員会 設置について
- 1-7 歴代構造物品質評価／品質検査制度研究小委員会（JSCE 216 委員会） 委員構成
- 1-8 2007 年制定「コンクリート標準示方書」講習会資料の貸与に関する考え方
- 1-9 HPCRCC 指針（案）の英語版の出版と web 公開について
- 1-10 平成 19（2007）年度 目標／計画（アクションプラン）と実施状況・今後の課題
- 1-11 平成 20 年度 土木学会全国大会研究討論会 企画応募（案）
- 1-12-1 コンクリート―地盤境界問題研究小委員会（332） 委員構成
- 1-12-2 コンクリートの非破壊評価技術の信頼性向上に関する研究小委員会（JSCE 339 委員会）委員構成
- 1-13 「地震作用に対するコンクリート構造物の性能照査型設計―時空間における設計の課題と近未来像―」に関する講習会 開催のご案内
- 1-14 社団法人 日本圧接協会会報「圧接」，Vol. 43，No. 1，2008. 4

回覧資料：

- ・構造物表面のコンクリート品質と耐久性能検証システム研究小委員会（335 委員会）成果報告書およびシンポジウム講演概要集（コンクリート技術シリーズ 80）
- ・7th International Congress CONCRETE: CONSTRUCTION'S SUSTAINABLE OPTION
（2008 年 7 月 8 日～10 日，Dundee，Scotland）
- ・ステンレス鉄筋を用いるコンクリート構造物の設計施工指針（案） 資料編

議 事：

1. 委員長挨拶（宮川委員長）

宮川委員長（1期目2年目）より、新年度最初の委員会開催にあたり挨拶があった。

2. 前回常任委員会議事録の確認（平成19年度第6回常任委員会）

信田幹事より資料1-1の前回議事録（案）が読み上げられ、承認された。

3. 審議事項

(1) コンクリート委員会 平成19年度最終決算および平成20年度予算

横田幹事長欠席のため代理で岸幹事より、資料1-2-1の決算および資料1-2-2の予算案が説明された。主な内容は以下のとおり。

【決算（前回以降の措置を中心として）】

- ・ 示方書改定出版の終盤の予算として、示方書出版会計からの仕掛金を追加措置した。
- ・ 特別会計から一部を一般会計に繰り入れ、示方書連絡調整委員会に充てた。

【予算】

- ・ H19年度行事収益還元金および示方書講習会会計（大阪会場）からの収益金繰り入れなどを、英文版コンクリート標準示方書小委員会に充てる。
- ・ 示方書出版会計からの仕掛金により示方書改定小委員会の活動等に充てる。

審議の結果、決算および予算は承認された。また、宮川委員長より、示方書講習会（東京会場および大阪会場）が盛況であったことについて謝意が述べられた。

(2) ステンレス鉄筋を用いる鉄筋コンクリートの設計施工指針（案）への意見対応

二羽委員より、資料1-3-1および1-3-2を用いて、意見への対応について説明があった。なお、資料編は回覧した。これに対する主な質疑は以下のとおり。

- ・ LCCについては資料編に記載されるとのことだが、本編には記載はないのか
→記載はない。
→解説などで、LCCを考慮すると有利になることなどについて触れるのがよい。
- ・ 使用限界状態でひび割れ幅5mmが決まるという意味か？
→ステンレス鉄筋部材でも、使用限界状態から決まるたわみなどの制限を受けるので、結果的にひび割れ幅も制限されるという主旨である。
- ・ ひび割れ幅0.5mmという制限はなぜ必要なのか？また、ひび割れ幅0.5mmは、通常の載荷重では生じないレベルである。
→0.5mmでは腐食が見られなかったというデータしかない側面がある。また、美観・景観を考慮すると、上限を設定する必要がある。一方、ステンレス鉄筋を用いる場合のメリットと捉えている。
→限界値が、鋼材腐食に関するひび割れ幅の限界値であることを補足する。
- ・ 異種金属接触によっては腐食しないことが、あらゆるケースで、と判断される懸念はないか？
→資料編では条件を明記した実験結果を示している。また、他の条件（中性化、塩化物イオン含有など）では、異種金属接触かどうか、明確に区別できるに至っていない。

次いで二羽委員より、今後、本日の意見を反映したうえで、7月中に発刊し、9月4日（木）午後に東

京で講習会を開催したい旨が述べられた。

審議の結果、今後について小委員会に一任することとした。

(3) 示方書英訳小委員会 委員構成

上田委員より、資料 1-4 を用いて委員構成（案）（打診中）が説明された。主な内容および質疑は以下の通り。

- ・ 若手（30代）を主体として委員を構成した。
- ・ どの部分を英訳するのか？全訳・抄訳はどのように扱うのか？
→今後の委員会での検討次第だが、4つの編の構成を考慮して定めたい。外注を考慮しており、予算にも依存するが、今のところ、全訳に近い形が念頭にある。なお、平成21年の中ごろまでに発刊したいと考えている。
- ・ できるだけ早く出版したい。Webからのダウンロードも含め、委員会で検討してほしい。

審議の結果、委員構成について承認された。

(4) 次期示方書改訂小委員会について

宮川委員長より、次期の示方書改訂小委員会を設置し、その委員長は丸山委員に依頼することが提案され、審議の結果、承認された。

次回改訂は2012年になる予定である。宮川委員長ならびに丸山委員より、2007年版を総括して、次の改訂にどのように向かっていくかを検討する必要がある、現主査や幹事も含めた委員構成とすることが考えられること、平成21年の春までに次期改訂に向けた構想を取りまとめる予定であること、などが述べられた。

(5) エポキシ樹脂を用いた高機能PC鋼材を使用するプレストレストコンクリートの設計施工研究小委員会 委員構成

二羽委員より、前回委員会で委員長に着任することとなったことを受けて、資料1-5を用いて、委員構成が提案された。

- ・ 平成22年3月までの2年間の委託である。
- ・ 民間委員は内諾を得ているが、それ以外は案である。ぜひお引き受けいただきたい。
- ・ 6月17日に第1回委員会を、7月22日に見学会を開催予定である。

審議の結果、委員構成について承認された。

(6) インフラマネジメント小委員会について

河野委員より、資料1-6を用いて、小委員会の設置および委員構成が提案された。主な内容は以下の通り。

- ・ 平成19年度の1年間、重点研究課題に対応した委員会を設置していた。それを継続し、追加2年間とし、委員会の名称を変更のうえ、新たに設置を提案する。
- ・ 委員はスタート時点では10名。議論の内容によっては委員を追加したい。
- ・ コンクリート技術シリーズでのガイドライン等の作成や講習会の開催を予定している。これに対し、以下の意見・質疑があった。
- ・ 重要な課題と考えられる。コンサルタントなどの委員の追加も念頭においてほしい。

- ・ 技術者を育てることも目的となるのか？

→その通りであるが、そのために何をすべきかから検討したい。

審議の結果、設置および委員構成について承認された。

次いで、河野委員より、資料 1-11 を用いて、土木学会全国大会（仙台）において開催される研究討論会への応募企画「市民にとって良いインフラとそれを支える技術・技術者システム」が紹介され、参加要請があった。

- ・ 日時等：9/10（水）16:10～18:10 150名。
- ・ 仙台市民（地元市民）に話題提供をお願いしている点がひとつの特徴である。

(7) 216 歴代構造物品質評価／品質検査制度研究小委員会 委員構成

岸幹事より、資料 1-7 を用いて、委員構成が提案された。

- ・ 重点研究課題が採択されたのを受けて、第 2 種委員会を立ち上げるもので、単年度の委員会である。
- 審議の結果、設置と委員構成について承認された。

(8) 示方書講習会スライドの貸与について

信田幹事より、資料 1-8 を用いて、貸与に関する考え方が説明された。これに対し、以下の質疑・追加説明があった。

- ・ 考え方については賛同するところであるが、負担金はどのような取り扱いになるのか？特別会計など、コンクリート委員会の取り扱いとなり、有効に使用できるのが望ましい。
→制度上、難しい。
- ・ 幹事会で検討の結果、示方書の英訳のためとするのは、負担額を要請する根拠として十分ではないと判断された。
- ・ 2007 年版については JCI からまだ貸与の依頼がない。依頼があった場合に JCI が予算化すると想定される負担要請額を記載していることとなっている。

審議の結果、承認された。

(9) HPRCC 指針（案）英語版の出版と web 公開について

六郷委員より、資料 1-9 を用いて、既に 5 月に完成している HPRCC 指針（案）の英語版について、当初は JSCE Guidelines for Concrete として出版する予定であったところ、迅速・広範囲な公開を目的として、コンクリート技術シリーズでの出版（全編）と Web 無料公開（指針と試験評価方法のみ）とすることが提案された。

- ・ 費用については、土木学会やコンクリート委員会の負担はない。
- ・ JSCE Guidelines for Concrete を出版する場合、Web 無料公開について出版委員会に諮る必要があり、時間がかかる。
- ・ 他の指針類も同様になるのか？（指針類の英訳が求められるのは従来どおり）
→本指針についてのみの提案であり、過渡期的な措置と考えている。

審議の結果、承認された。

(10) コンクリート委員会ホームページの更新について

佐藤幹事より、プロジェクトを用いて、コンクリート委員会ホームページの更新状況が説明された。

- ・ 内容を整理するとともに、構成・デザインを更新した。
- ・ 各小委員会の HP があればリンクする。
- ・ 英語版は現時点では従来のままだが、順次、更新を予定している。

主な質疑は以下の通り。

- ・ 更新日を表示するようにはどうか。
→対応済み。
- ・ 示方書の正誤表は掲載するのか？
→従来、コンクリート委員会ホームページには Q&A を掲載している。今回は正誤表も掲載予定である（前回は出版委員会サイトに掲載されている）。出版委員会のファイルへリンクするなどを検討する。5 月末までの幹事団によるチェックを経て 6 月に公開されるので、機能面などに関する意見があれば佐藤幹事まで連絡することとなった。

(11) 8HSC-HPC 国際シンポジウムにおける展示ブース開設

信田幹事ならびに入矢委員からブース展示について説明があった。

- ・ 土木学会へは無償でブースが用意されている。JCI テクノプラザとほぼ同様の大きさである。ブース内の設営の費用は負担が必要。
- ・ 無償ブース開設の案内は会議主催・共催者である ACF, fib, ACI, 日本建築学会などに行われている。
- ・ 活動状況の報告、英文出版物などを展示してはどうか。
幹事団と入矢委員で検討し、必要に応じて出版委員会等とも相談のうえ、開設する方向で進めることとした。

(12) 1 種・2 種小委員会委員追加・変更

該当なし。

(13) その他

- ・ 岸幹事より、土木学会に対して国際会議“High Performance Concrete in Practice, NZ, 2011”への後援要請があった旨が報告された。費用面の負担はない。

できるだけ引き受けるのが望ましいと考えられ、コンクリート委員会としては受諾することとした。今後、学会としての判断が必要となるが、その手続きは幹事団にて進めることとした。

4. 報告事項

(1) コンクリート標準示方書改訂講習会実施報告

信田幹事より、東京および大阪で開催されたコンクリート標準示方書改訂講習会の実施報告があった。参加人数、収支、吉田賞寄付金、プレス掲載関連、販売状況が報告された。また、現在は、改訂メンバーにより正誤表の作成、質問対応、改訂に関する投稿原稿作成等を行っている。

なお、質問対応については、前回改訂時と同様、質問事項、回答者名、回答内容を Web にて公開する予定である。

ついで、梅原委員より、中部支部開催の出席人数の報告があった。

(2) 平成 19 年度委員会活動自己評価【別紙資料】（岸幹事）

横田幹事長欠席のため代理で岸幹事より、資料 1-10 の平成 19 (2007) 年度 目標/計画 (アクションプラン) と実施状況・今後の課題が報告された。主な内容は以下のとおり。

- ・平成 19 年度の最終評価であり、コンクリート委員会の種々の活動を盛り込みいずれも A 評価とした。なお、本資料は、企画委員会が取りまとめ、資料として発行される予定である。

(3) 年次大会研究討論会企画

審議事項(6)で紹介済みのため省略。

(4) 3 種委員会委員の追加・交代

信田幹事より、資料 1-12-1 および 1-12-2 を用いて、それぞれ 332 コンクリート—地盤境界問題研究小委員会および 339 コンクリートの非破壊評価技術の信頼性向上に関する研究小委員会の委員の追加・交代、所属変更が報告された。

(5) 講習会・シンポジウム等開催案内

信田幹事より、下記の講習会・シンポジウム等の開催報告があった。

- ・「地震作用に対するコンクリート構造物の性能照査型設計—時空間における設計の課題と近未来像—」に関する講習会 (2008 年 7 月 4 日 (金) 13:00~18:00, 土木学会 講堂, 申込締切日: 2008 年 6 月 25 日 (水) (資料 1-13))
 - ・ 7th International Congress CONCRETE: CONSTRUCTION'S SUSTAINABLE OPTION (2008 年 7 月 8 日~10 日, Dundee, Scotland) (回覧資料)
- ついで、社団法人 日本圧接協会会報「圧接」, Vol. 43, No. 1, 2008. 4 の配布が確認された。

(6) その他

- ・丸山委員より、278 垂井高架橋の損傷に関する調査特別委員会の最終報告書が完成し、HP からダウンロードできること、当該橋梁は 8 月初旬から供用されていることが報告された。
- ・岸幹事より、335 構造物表面のコンクリート品質と耐久性能検証システム研究小委員会の講習会が過日終了したこと (コンクリート技術シリーズ 80: 成果報告書およびシンポジウム講演概要集を回覧)、審議事項(7)で設置が承認された 216 歴代構造物品質評価/品質検査制度研究小委員会の活動と絡めて、今後、各地で講習会を開催することも念頭においていることが報告された。
- ・松岡前委員の後任として着任となった新藤委員より自己紹介があった。

5. その他

次回幹事会 (案件の締切): 2008 年 7 月 1 日 (火) 九州大学

平成 20 年度第 2 回常任委員会: 2008 年 7 月 8 日 (火) 14:00~17:00 福岡市

以 上